

NTTデータ

# 充実した機能でユーザーとベンダーを結ぶ SaaS共通基盤「VANADIS® SaaS Platform」

## ユーザー/ベンダー双方の課題を解決するNTTデータのSaaSへの取組み

NTTデータは、公共・金融・法人といった各分野で幅広くシステムインテグレーション（SI）を行い、多種多様なアプリケーションを提供している。また、SIで培ったノウハウやソフトウェア資産を生かしたSaaS（Software as a Service）にも取り組んでいる。その際、サービスプラットフォームを個別に構築していたのでは非効率であり、大幅なコスト負担となる。そこで、プラットフォームを統一して全社的にSaaSで利用できる仕組みづくりを行っている（図1参照）。NTTデータ全体でのSaaSへの取組みスタンスとして、(株)NTTデータ ビジネスソリューション事業本部 ネットワークソリューション

ビジネスユニット 企画担当 課長 齊藤 健治氏は次のように語っている。

「SaaSというと、Salesforce.comに代表されるようにインターネット経由で利用するWebサービスをイメージしがちですが、NTTデータではSaaSをもっと広く捉えています。例えば構築形態は、Web型だけでなく、ストリーミングやダウンロードが可能なクライアント・サーバ型等、幅広く適用すると考えています。」

NTTデータのSaaSはインターネットやモバイルに限らず、VPNのような閉域網やNGN等の利用も想定している。その理由として、SaaS構築の立ち上げの時期にはセキュリティ上の問題が懸念されるため、インターネット以外の選択肢も重要であると思われるからである。

また、SaaSの提供形態も様々なケ



(株)NTTデータ  
ビジネスソリューション事業本部  
ネットワークソリューションビジネスユニット  
企画担当  
課長  
齊藤 健治氏

ースが出てくると推測している。パッケージベンダーが自社パッケージをSaaS化するケース、SIベンダーがカスタムアプリケーションをSaaSとして再構築するケースの他、企業のIT部門が社内システムを社外やグループ企業などへ提供するケースや、コンシューマ向けSaaSベンダーが企業内利用に向けて提供するケース等である。

「NTTデータはこれまで請負型のSIを中心としたビジネスを行ってききましたが、今後は、これにサービスビジネス（Service）、ソフトウェアビジネス（Software）を加えた、3つの“S”に注力していきます。SaaSはその中のサービスビジネスと捉え、強力に取り組んでいます。」（前出 齊藤 健治氏）

ところでSaaS利用のメリットと

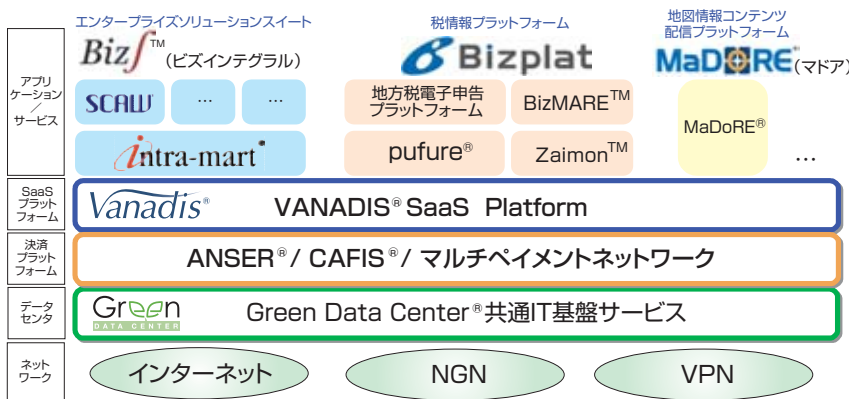


図1 NTTデータのSaaS取組み全体像

は何か？ 初期投資／先行投資が小額ですむこと、短期の導入が可能なこと、利用者拡大が容易であること、面倒なシステム運用やバージョンアップ作業が不要であること、インターネット経由でどこからでも利用が可能なこと等が挙げられる。

一方、これらのメリットを完全に享受できる環境にするには、ユーザー側およびベンダー側で様々な課題を抱えているというのが現状である。ユーザー側が懸念していることとして、既存社内システムとの連携（ID、ログイン、マスター等）や、それらのセキュリティの確保、さらに全体的な機能の信頼性・可用性、性能の確保等がある。一方でベンダー側は、既存のアプリケーションのSaaS化やサーバ等の設備に多大な投資、加えて、これらの設備に対するセキュリティ対策が必要となる。また、サービス運用、販売モデルの変化等に伴って、新たな体制の整備も必要となるだろう。

ユーザーおよびベンダー双方がSaaS提供・利用に対する上記のような課題を解決し、SaaS市場の早期立ち上がりを支援するために、共通基盤として構築したのが、NTTデータ・ビジネスソリューション事業本部が提供する「VANADIS® SaaS Platform」である。

### 共通プラットフォーム 「VANADIS® SaaS Platform」

NTTデータは、ベンダーとユーザーの間にSaaSを提供するための共通プラットフォームを置き、そこ

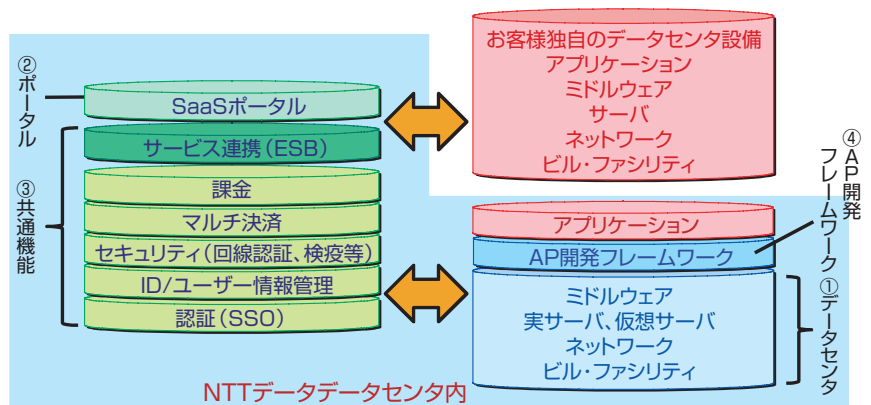


図2 VANADIS® SaaS Platformの全体イメージ

が必要となる共通機能やサービスを提供する基盤を考えた。この基盤上で、SaaSベンダーは様々なレベルの機能・サービスを提供することができるようになる。

VANADIS® SaaS Platformは、データセンター、ポータル、共通機能、AP（アプリケーション）開発フレームワークで構成されるが、データセンターに関しては、NTTデータのサービスを利用することも、独自に構築することもでき（図2参照）、フレキシブルな提供を可能としている。以下、VANADIS® SaaS Platformの各要素について解説する。

#### ①データセンター

サーバ、ネットワーク、OS、ミドルウェア等を、NTTデータが規定する構成で構築・運用する「共通IT基盤サービス」を提供する。マネジメント付ホスティングサービスとなっており、SaaSベンダーは設備の保守運用体制を整備する必要がない。また、サーバ仮想化技術を利用することで、サーバ台数の削減によるコスト削減とともに、アプリケーションのマルチテナント化を支援

することができる（共通IT基盤サービスについては後述）。

#### ②ポータル

ユーザーの利便性を意識したSaaS専用のポータルである。主な機能として、サービス検索／申請／解約機能、利用状況確認や問い合わせ機能、ライセンス管理機能等がある。

ベンダー向けには、サービス管理機能、周知管理機能、利用状況確認機能、問い合わせ確認／回答機能等が用意されている。

#### ③共通機能

ユーザー管理、シングルサインオン（SSO）認証、課金、決済、各種セキュリティ機能などSaaSで共通的に必要となる機能を提供する。ユーザー管理と認証は、組織／グループ／役職／権限などに応じてきめ細かい制御が可能である。また、決済は請求書、クレジットカード、回線代金との重畳など多様な決済手段に対応する。その他、PC検疫・回線認証などのセキュリティ機能等も用意されている。

#### ④AP開発フレームワーク

Web Applicationフレームワーク

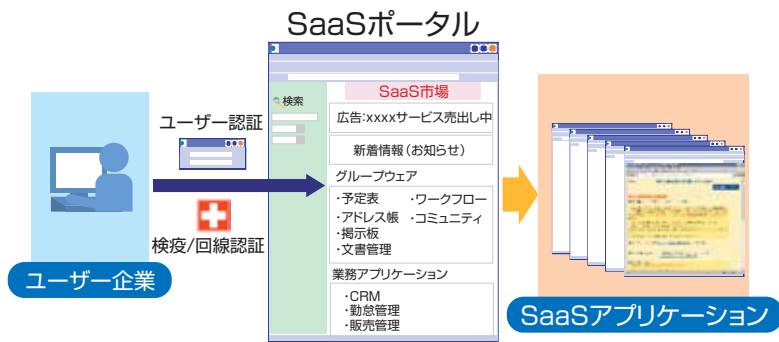


図3 サービスモデル～マーケットプレイス

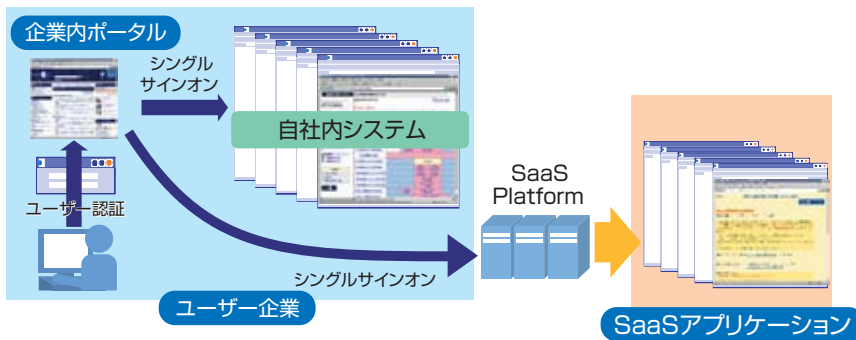


図4 サービスモデル～イントラネット拡張

として、共通機能との連携を強化したNTTデータイントラマート社のintra-martフレームワークを提供する。主な機能として、Java EEフレームワーク、ワークフロー、レポートインク／帳票印刷、共通マスター等がある。

### SaaS活用による 様々なサービスモデル

VANADIS<sup>®</sup> SaaS Platformでは、いくつかのサービスモデルを想定している。

#### ・マーケットプレイスモデル

主に中小企業をターゲットにしたモデルであり、個々の連携を必要としないSaaSアプリケーションが多数用意されているモデルである。エ

ンドユーザーの企業内システムとの連携は最小限で行うことで手軽に入ることができる(図3参照)。

#### ・イントラネット拡張モデル

中～大企業向けに、イントラネットを拡張した環境を提供する。ユーザー企業内システムとの連携(ID、SSO、データ)を行う。その際、プラットフォーム部分はエンドユーザーには意識されないような仕組みになっている(図4参照)。

#### ・企業グループモデル

多くの支社やグループ会社を持つ大企業が、これらに向けてSaaSを提供するモデルである。SaaSアプリケーションは内製と外部ベンダー製品を併用できる。エンドユーザー企業内システムとの連携により利用

できる。

### NGNとの連携により VANADIS<sup>®</sup> SaaS Platformを強化

VANADIS<sup>®</sup> SaaS Platformでは、インフラとして、NGNを活用することも可能である。それにより、高いセキュリティと信頼性を実現しつつ、オープンなインターフェースを使って、事業者がNGN独自機能を活用することができる。また、ネットワーク遅延を少なくした環境が必要なコミュニケーション系SaaSやシンクライアント、および帯域保証が必要な大容量データ転送に対して、QoS制御が可能となる。回線認証の高度化にもNGNは役立つ。NGNの回線認証でアクセス元を識別でき、ユーザー認証との組み合わせにより、柔軟なセキュリティポリシーを実現できる。

### さらなるSaaS活用に向けて 広くユーザー企業、ベンダーとも連携

前出の齊藤 健治氏は、SaaS型サービスおよびVANADIS<sup>®</sup> SaaS Platformの今後の展開について次のように語っている。

「既に提供されているSaaSの拡販や付加価値向上、自社パッケージや内製システムのSaaS化、新規SaaSの立ち上げ等を検討しているベンダー企業、さらにはユーザー企業からも多くお問合せをいただいています。今後も社内外連携を進め、プラットフォームとしての内容充実を進めていきますので、気軽にお声かけください。」

## 共通IT基盤サービスで SaaS ビジネスを支える

NTTデータは、最新のグリーン化技術を取り入れたデータセンターで、高品質のIT基盤および運用を低価格に抑えた「Green Data Center® 共通IT基盤サービス」を、本年10月から提供開始した（図5参照）。このサービスは、VANADIS® SaaS Platformのデータセンターとしても利用されている。

従来のプラットフォームは、AP、ミドルウェア、ハードウェア、ネットワーク、ファシリティ等、プロジェクト毎の個別開発および運用によって行われていたが、今回のサービスは、これらのレイヤを集約し統合することにより全体最適化を行っている。

「弊社はこれまでインターネットデータセンタービジネスを8年ほど手がけてきました。共通IT基盤サービスでは、全体最適という視点でのサービス統合を行いました。さらに最近クローズアップされている『グリーンIT』という視点からも進化した

データセンターを構築しました。我々が提供するデータセンターサービスで、VANADIS® SaaS Platformをバックアップします。」（㈱NTTデータ ビジネスソリューション事業本部 データセンタービジネスユニット 営業統括部 営業担当 部長 高田 久寿氏）共通IT基盤サービスの具体的なサービスメニューとして次のようなものがある。

### ・マネージド・ホスティング ハード共有パッケージサービス

複数顧客でサーバを共有するモデルで、仮想化環境上でサービスを提供。リソースを必要な時に必要なだけ短納期で利用できるので、自前で資産や運用要員を所有したくないユーザーや価格重視のユーザーに最適。

### ・マネージド・ホスティング ハード専用パッケージサービス

ラックは共有するが、サーバ、ソフト等のリソースは顧客専有で提供。サーバ以外の部分についてはNTTデータのIT基盤を活用できるので、ITILベースの運用マネジメントサービスを低価格で利用でき

る。自前で設備を所有し、業務要件に応じた多少のカスタマイズを必要とするユーザー向け。

### ・個別IDCサービス

NTTデータが提供する「グリーンデータセンター」環境を利用し高信頼、高セキュリティ環境をラック単位で利用可能。設備品質、運用品質を重視するユーザー向けサービス。

前出の高田 久寿氏は「今後、SaaSを取り組んでいく際に、その受け皿となるような柔軟性のあるデータセンターが必要になってくると思われます。弊社公共・金融・法人系各事業本部が提供するSaaS型ソリューションを支えられるような、低価格で柔軟性のあるデータセンターソリューションを提供していきたいと思っております」と締めくくった。

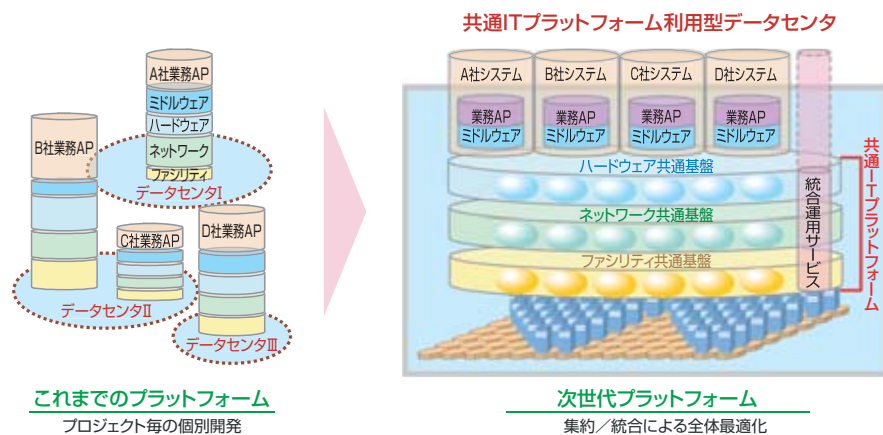


図5 共通IT基盤サービスの全体イメージ



（株）NTTデータ  
ビジネスソリューション事業本部  
データセンタービジネスユニット  
営業統括部  
営業担当 部長  
高田 久寿氏

### <お問い合わせ先>

（株）NTTデータ  
ビジネスソリューション事業本部  
ネットワークソリューションビジネスユニット  
TEL：050-5546-8782  
データセンタービジネスユニット  
TEL：050-5546-8622